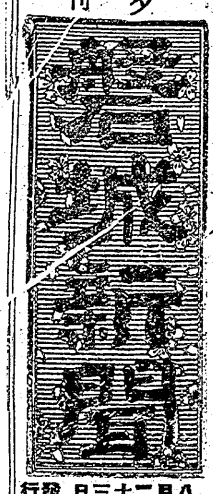
夕刊
八月二十三日　發行
定價　一ヶ月金六拾錢　郵送料金六拾錢
廣告料金　一段　一行　一回　金拾錢　大一段　一行　一回　金五拾錢
編輯印刷發行人　鈴木　實
印刷所　茨城縣日立市大字日立一二番地
發行所　茨城新聞社
電話　日立二六八番
東京出張所　東京市麻布區霞町十二番地
電話　西五六四
東京電話　一〇六五五八八番
（日曜祭日翌日休刊）



天氣豫報

小名浜測候所觀測
今晩　南西の風夕立模様
明日　同

夏すがた

牧生

（上）

私は久振りで閑寂な山の空氣を味ふべく嵐峡のほとりを彷徨ひ歩いかった。緑で濃る別天地も京都の街からは郊外電車によって、しばらくの間に運んでくれる。

×

朝早く、たゞでさへ靜かな谿谷のこゝは、今、夜の眠から全く覺め切らない樣に重い空氣がしつゝと纏りを包んでゐる。翠色の朝霧が、遠く樣に垂下って、一條の帶の如く被さる峰の裾にまで達してゐる。遠く近くの山々は二重も三重もの段になって、まるで墨でけいたものゝ樣に緩やかな線を描き出してゐる。黎明けるにおそい山峡の朝は、すぐ目の先の山襞に薔薇色に染んだ爽々しい陽の光が射しかゝつても、なほ薄風の蔭をはつきりと模糊たる朝霧の底に蹲ってゐる草も樹もすべて濡れた樣に露を受けてひっそりとしてゐる中に寂寞を破る物音とては、緑香しい松籟をざわめきと、其の下を縫って流れる保津の清流とであらう。淡々として流れ去り流れ來るところ、碧瑠璃の水に石を噛み、砂を洗って、水晶の飛沫を吹上げてゐる。岸に停って中を覗込むと底の石塊の一つ一つも手が屆きそうに判然と見わる。私に突出た岩の一つに腰を下して見るともなく水面を呆然と眺めてゐた。岩と岩とにせかれた水は、自からにしも滴る別天地も京都の街からは郊外電車によって、しばらくの間に運んでくれる。

×

チ、、、、、――。何處かで鋭い鳥の聲が反響して消えた。すぐ頭の上の椎の樹からとも思へるし、そうない樣でもある。

「この嵐山は天下に聞えた保津川下りの名勝であり、また鮎の本場としてもあまく知られてゐるところである。毎年、恒例として、琵琶湖で育つた鮎を何萬匹となく放流するのであるが、放たれた小鮎は清冽な流れに活々と上流へ上流へと溯行して、丁度解禁の頃ともなれば長さ四五寸にもなって都人の食膳を賑はして呉れるのである。

初夏風強

蕪雲　小野勝平

緑窗邀友盞清娛、
蕉破鶯偎瀟歎吁
終日長風卷塵土
園蔬大半就荒蕪

△秀吉征韓の軍を發す（文禄元）△西8月24日　總隊盛城山に自刃す（明治一〇）△保定陷落（昭和一二）△端島占領（同一三）

蜘の出征

植松蕾樹

○武裝して汗ばめる蜘に立ちながら酒飲みかはす道のほとりに
○飲みほして今更に云ふことのあらず茶椀を置く
○ちかに地
○裝具
○捷ち
○知ぬ
○人に
あれけり吾が蜘
○蜘の部隊見送りて心ゆるみをり採みあふ群にわ
お身をまかす

そのあと

○

裏道を風鈴賣のあとつきて幼き子らのざわぎゆくなり

澄子

講談

振袖横町

（11）

須藤鐘一
荻原萬象畫

陰謀（五）

「いゝ若い者が、宿をおン出されるなんて、餘り意氣地がなさ過ぎる話ちやねえか、ね、一造さん……」

「だからさ、こないだの駄賃が貰ひてんで……」

「ありや、少し待つて貰ひてえんだ……」

「さうは行かねえ、お前さんはあれを種にたんまり旨い儲が出來るんでげせう……」

「そこへ行くとあつちなんざあ可哀想なもんで、たつた、二箱か三兩の駄賃でおつ拂ひれるんちやねえか……」

「それぢや一造さん、今日は屋根代だけ持つていつて貰はうかね……折角お出になつたんだからね」

と、云つて一朱渡さうとするのを、一造は手もつけないで、

「なんぼなんでもこれぼつちぢや仕樣がねねんで、屋根代だつて、十もたまつてゐるんだ。おれが女のけつを追つかけてばつかりいたんで、仕事なんかほつぽりかしゝ休んでばつかりいたんで、宿の親爺にはすつかり信用がなくなつて、たまつてゐる屋根代を、みんな入れて呉れなきゃ、出て呉れつて、いはれてるでなんだからね』

『だいど、おれんところにゃ今、くけしかねえ……一寸待つておくんねね……探し出して見ますから……』

「くんなつ　ア　ちう……、ねわ、五兵衛さん、女の後をつけてく、

「あつた、あつた、簞笥の隅にこれだけあつた……。今日は、まつたくねえんだから、これだけ持つて行つてお呉んな……明後日か明々後日なら、耳を揃へてお約束の駄賃はあげますからね』

『そうですかい、わつちだつてんですせ、せめて、今日は一兩貰つて行かなければねえ』

『そいつが、今日は都合がやまぎれに、どんなことをしねねとも限らねね……。そいぢや、後金のところはお頼み申しますよ』

『今度はきつと間違はねね一造さん、お屋敷から金が下りねえと、この五兵衛も店立てを食されるんでなあ』

『今度は厳味を言はねねやね、岡っ引やなんかに怪まれて、隨分、ひでえ目に逢つてんですせ、せめて、今つて何もっそんな事アしたねねえが――駄賃が貰はねねとすれば、むしやくしねねとすれば、むしやくしねねとも限らねね……。そいぢや、後金のところはお頼み申しますよ』

『今度はきつと間違はねね一造さん、お屋敷から金が下りねえと、この五兵衛も店立てを食されるんでなあ』

『今度は厳味を言はねねやね、岡っ引やなんかに怪まれて、隨分、ひでえ目に逢つてんですせ、せめて、今つて何もっそんな事アしたねねえが――駄賃が貰は

講演、祈願、童心動員！
『理想選擧』の達成へ
市の肅正强調陣整ふ

縣議戰近づく

市ではそろ〳〵縣議選擧が近づいたので戰時下一層肅正の實をあげるべく二十四日市公會堂に開かれる縣主備振興委員會終了後直に委員會を續行、決議並に左記申合せをなす外前國同樣

性源寺、九品寺、公會堂、第三、第四兩小學校、中鹽分敎場、市會議事堂、湯殿山

の八ケ所で肅正講演會を開き、又各區部落毎に懇談會を開かせて大々に趣旨を强調する傍ら童心を通じて呼びかけるべく小學兒童の綴方、書方、圖畫等を各家庭の神棚に掲げさせ、愈々期日が切迫すれば縣社子鍬倉の神前で肅正祈願祭を執行し『理想選擧』の達成を誓約する

申合事項

一、戰爭下選擧の重大性に鑑み理想選擧の實現を期すること

二、選擧の本義を普及徹底し一致協力正しき選擧權の行使を期すること

三、買收、饗應、利益供與等選擧權を冒瀆するが如きことなきを期すること

四、選擧法規を遵守し互に相戒め選擧違反者の絶無を期すること

五、我平市の有權者は萬障を排し必ず棄權せざること

炭況依然旺盛
奔躍的な最近發送統計

常磐炭各山元は依然として摩一萬九千七百六十噸を增ひたむきに活發な增送を續し、鐵道用は三十四車の赤字だが數量は三百三十噸を增し彼此合計八百三十二移入によつて近來にない勞發資源の强化を豫想され彌卓二萬九千八噸の增で前中が上にも今後の奇蹟的能率增進が約束されたかたちで車三萬四千八百八十六噸の激增となつてゐる。即ち去る十一日以降ある。二十日迄の發送統計によると

事業用五、一五四車六九、〇四四噸、鐵道用一、一六七車一五、二二三噸、合計六、三二一車八四、二六七噸

で前年同期に比し前記十日間に於て事業用八百六十六噸の發送統計によると

神宮へ出場

明治神宮國民體育大會柔道に本縣から出場選手は昨二十二日午前九時から縣男子師範で豫選を行つたが一般の部は四段神谷村阿部文平君一人が出場することになつた

神谷の阿部柔道四段

大和田君戰死
四倉

町仲町出身大和田熊次郎氏二男歩兵上等兵茂君は前線で活躍中名譽の戰死を遂げた旨二十二日町役場へ公電あつた、同君は出征前まで日立製作所に勤めてゐた眞面目な青年である

前線から銃後へ

市內新川町出身大木旅組合役員會濱三郎

沼孝治君は目下中支戰線で活躍してゐるが小遣ひを節約、金五圓を市銃後奉公會へ寄附

新豫算案も出來て
會員募集に着手
―市銃後會の內容(中)

こんど生れた市銃後奉公會の前身軍事後援會が一昨年八月結成以來今年三月までに於け

△支出　慰問費四、八〇〇圓、扶助費二、四〇〇圓、見舞餞別費八〇〇圓、傷病費二八三圓八三錢其他

軍事援護

寫志者の『赤誠の結晶』はその額一萬六千八百八圓でこのうち慰問、扶助、弔慰等に支出した殘額四千五百十二圓が新生銃後奉公會の豫算に繰入れられた、新豫算は

△收入　會費三、〇〇〇圓の外寄附金一、七〇〇圓繰越金等を併せて總額九、〇八三圓八三錢

既に準備萬端整つたので折く幹部會を開き會員の募集に當る筈であるが今後は恩賜財團軍人援護會とも聯繫を保ち平戰兩時を通じて援護が存續發展をはかるものとして各町村の此種團體もみな『銃後奉公會』の新名稱の下に恒久的な銃後施設が講ずられることになつてゐる

日の丸習字板發明
石川さんに特許下る

市內月見町美術表具店主石川榮三郎さん(四二)は小學兒これは半紙判のセロファンの惡筆矯正と用紙節約を目的とした兒童用日の丸習字板を考案、實用新案特許申請中二十一日許可された、

乾燥がよいので文字が書きよく從つて袖口、手等が汚れず書損じが尠くといふ、賣價四十錢、この外メモ板(四十錢)特製候込式(七十錢)等もある

尙同氏はゴム製品の制限でフットボール、軟式野球用ボールが購入困難になつたのでボロ、紙屑等を利用壓搾し外部を特殊のセロファン包んだ彈力性に富む代用品も發見目下特許申請中である

縣下の大勢に逆行
郡北の初秋繭減少
手不足と煙草耕作が因

今市及び四倉町を中心とする初秋蚕繭は今二十三日頃から弗々出廻り、來る二十九日前後が最盛期で來月二三日頃が終期と觀られてゐる。而して價格は昨今の貿易關係その他微妙な諸種の動きから適確な豫斷は附かぬが昨年より下向く

なるが集散見込高は四倉町一萬四千貫、平市二萬二千貫で此程其筋に取纏めた全縣下の收繭豫想七十八萬五千四百九十貫、この前年對比十七%の增加に反比例し四倉は二〇、六%、平市は〇、二%の減を豫想されて居る。右は土地柄特に深刻な時局關係の勞力不足と、本年よる新に力を傾注し出の言質を得て一と先づ引き

工業學校資金造成
青沼市長ら炭礦訪問

工業學校の建築資金造成のため市では二十二日委員會を開いて協議の上青沼市長と委員一行が三大炭礦を訪問初交渉を試み協力すると

在京某氏の協力等もあり遲くも十一月まで目標八十萬圓造成の目鼻をつけるべく意氣込んでゐる

投槍名コーチ清水君
T生

『守備は範圍が狹いぞ』『一歩踏み出して居る內にランナーは二歩走つとるぞ』彼の腦裡に試合は離れない一つねに、白及と、白及の眞劍勝負が彼の腦裡にあるのだ。各選手は、へと〳〵になつて倒れる――倒れてもンデレションに災ひされて起ち上つて、やらねばならぬ。球が來れば起ち上つて構へてゐる。

◇もう人間業とは思へない。――『あと、三回』の聲がかゝつた時には、よく走りよく止めるのだ。實に人生の勝敗は此の七轉び八起きの精神にある。此の意氣を知らずの內に養成されて行くのだ。

◇事實此のコーチが物言つて縣下大會を悠々と突破して東北大會に駒を進めたのである。遺憾乍ら惡コ選手に頭を下げ『此の全度はお芽出度うございました』と云つたと云ふ――清水君なればこそだ。終りに商友會並びに新たに誕生した平商後援會に感謝の意を表し、六大學リーグを前に清水君の健在を祈る。

◇學生時代の清水投手の事は今更茲に特記する迄もあるまい。初めだと思つた。馴れるに從つて清水投手の來平が報道された時『本當か』と疑ぐつた。然かも縣下に覇を制し大聲を張り上げて全軍を叱咤吾等が平商をコーチする――球は火の玉と化して勢ひよく延びて行くのだ。

◇『駄目じや〳〵試合の時、そんな事するのか』

◇『駄目じや〳〵試合の時、そんな事するのか』

◇現大のナンバーワン清水投手の事は今更茲に特記する迄もあるまい。初めだと思つた。馴れるに從つて清水投手の來平が報道された時『本當か』と疑ぐつた。然かも縣下に覇を制し大聲を張り上げて全軍を叱咤吾等が平商をコーチする――球は火の玉と化して勢ひよく延びて行くのだ。

◇『駄目じや〳〵試合の時、そんな事するのか』

◇清水君のコーチは、實に熱烈火を吐く――の感が深い。初日のコーチ振りを見た時は、選手が可哀相

赤井に辻强盜
共犯二名逮捕さる

二十二日夜七時頃水戸村柴崎初藏(四七)さんが赤井村高萩地內の暗かりを通行中屈强な三人組の青年に現金一圓五十錢を强奪逃走されたので早速駐在所へ、小田田巡査が追跡し、うち二名をひつ捕へたが一名は逃走

赤井村日曹福島炭礦坑夫市長定男(三六)同高木河夫(二七)の兩名で引續き平署で追究中

献金

市內久保町青年團は改組以來費用を節約金五圓二十五錢を市役所を通じ恤兵部へ

中堅青宿泊講習　石城郡農會中堅農民講習生男女六十名は來月四日から七日迄矢吹修練農場で宿泊講習を受ける

電電　勿來町酒井字出藏大日本炭礦坑夫後藤音次郎(四一)は二十二日午前十時から選炭場附近で高壓線修理中感電即死

坑夫自殺　內郷村高坂磐炭雜夫小林鐵雄(三九)は二十二日午後五時頃市內驛前福住屋旅館で服毒自殺、原因病苦

若い女劇藥自殺(未遂)

市內堂の前林シヅエ(二二)は二十二日夜九時頃新川端で劇藥自殺をはかり苦悶中を發見され大森醫院で應急手當の結果一命は取止める模樣原因三角關係を苦にして？

縣の慰問使を迎へて
―鄕土出身將兵の感想その他―

蓮沼龍輔抄〔7〕

市內南町出身

本間七五三吉

承前。附近には敵の遺棄屍体が彼方此方に見ゆる。頑丈さうなトーチカには確實なる友軍の砲擊により半分破壞されて居るのが澤山見受けられた。

逃げ後れた敗殘兵である打讓られ茫然と行はい居た。寄して來るのでせう、時々(略)誰しも感慨に咽ぶことの頭の上をヒュー〳〵と厭なものがあるもの。

音を立てゝ飛び去つて行く

この部落の一番高い處で只今の激戰に尊き一命を捨てゝ護國の鬼と化した陣歿勇士の火葬が數名の戰友に五月の陽がかん〳〵と照り

この部落の一番高い處で隊は山間を縫うて前衛部隊の後を追つた。雪崩れの如抱えて笑ひ乍ら下山して來た時、人も馬も丁度追はれて水の中に入る家鴨の如く川邊りに駈け寄つた。

此の時だつた、一人の兵隊が何が可笑しいのか腹を抱えて笑ひ乍ら下山して來た時は手を合せ感涙に咽んだそうだ。話を聞いて見ると、一人の兵士の火葬が數名の戰友に

逃げ後れた敗殘兵である打讓られ茫然と行はい居た。寄して來るのでせう、時々(略)誰しも感慨に咽ぶことの頭の上をヒュー〳〵と厭なものがあるもの。

音を立てゝ飛び去つて行く

この部落の一番高い處で只今の激戰に尊き一命を捨てゝ護國の鬼と化した陣歿勇士の火葬が數名の戰友に五月の陽がかん〳〵と照り

細げてゐる、幾ら飲んでも足りない水が附近に無いのに一番閉口だ。敵の高等司令部のあつか〇〇集に着いたのは七日の午後一時頃だつた。この附近の川邊りに隊長殿より休暇を命ぜられた時、人も馬も丁度追はれて水の中に入る家鴨の如く川邊りに駈け寄つた。

此の時だつた、一人の兵隊が何が可笑しいのか腹を抱えて笑ひ乍ら下山して來た時は手を合せ感涙に咽んだそうだ。話を聞いて見ると、一人の兵士の火葬が數名の戰友に

に於けるナンセンスだ。敵の負傷した將校が擔架に乘つて此々の我が軍の患者收容所に苦力に運ばれて來たそうだ。餘りにも日本の推擊が早かつた爲敵も未だ友軍が居るものと思ひ間違つて運んだのであらう。

敵にして見れば飛んだ病院に入院したものと思つて居つたもうが親切な皇軍の醫さんが假繃帶をして頂いた時は手を合せ感涙に咽んだそうだ。(未完)

病室・手術室完備
產科　婦人科
醫學博士　五十嵐雄二
(物理療法科併置)
(入院)(隨時)
平市新川町(電話三六九番)

メガネ専門店

メガネは絕對信用ある當店に
先づ御相談御ご……
平市本町二丁目　玉屋

お醬油は……ヤマフル
塩屋
味噌醬油
たひら正宗
鰹節食品料
山崎合名會社
福島縣平市
電話(營業部一〇番)(本店二七番)
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

吸入用酸素純度99%
度量衡器
モノサシ　マス　ハカリ
計量器
体温器　秤ノ取緒　垂糸・修繕致シマス。
寒暖計
開內藥局
電話四〇番

御佛具
佛ダン位牌
特賣中
新盆には是非伊東屋へ
平市四丁目(局前)
伊東屋家具店
戰死者の方には勉强を致します。

●看護婦募集
一、副婦長　一名　年齡二十五才以上
一、看護婦　二名　年令ヲ問ハズ(試驗合格者)
履歷書本人持參の事
給料其他面談上決ノス
平市十五丁目(元共濟病院跡)
平病院
電話六四一番

〔木曜日〕　新暦八月二十四日　癸巳　佛滅　收　宿
舊暦七月十四日

△一白　一家心をまとめて專心業務に勵むが安全の日△二黑　追々と盛運に向はんとする端緒物事あせるな△三碧　虛榮をつゝしみ目上の言に從へば大吉となる△四綠　うつ氣散じて物事順調に進む外くり內が吉し△五黃　位のみ高まりて實收は意外に少き日旅行凶△六白　本業も都合よく運び行き願望も成就すべし△七赤　我意を通さず萬事目上の人の言に從へば吉△八白　果斷にして迷ふ事なくば成功の一日となる△九紫　心決せざる時は小事も手に餘る事となる日

〔御靈祭〕
平市慶弔錄
△出生　本籍才槌小路三三　江名町折戸八田彥太郎氏二女京子さん
○婚姻　中蘆字一水口二七　神谷字前之作八渡邊幸子さん(二三)
△死亡　一番丘町四富田トモ子さん(七)

二十四日
〔子名濟側候所觀測〕
〔潮汐〕干潮前四・二五　滿後九・一五